

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	鈴木 雄司	福祉	H2101005
	②	猪股 久美子	経営	H2301111
	③	望月 俊彦	福祉	H2401035
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	九品仏小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	158-0083		
	所在地	世田谷区奥沢8丁目12番1号		
	TEL	03-3703-6012		
事業所代表者氏名	事務局長 石塚 重男			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 1 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 30 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 1 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 16 日			
評価合議日	2025 年 9 月 16 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 安全で楽しい新BOP ー子どもが行きたいと思えるような居場所ー 2) 友だちや物を大切に 3) 挨拶や片づけをする 4) いろいろな学年の友だちと遊ぶ 5) ルールやマナーを守る
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもや保護者との信頼関係を構築できる職員 ② 積極的かつ前向きに子どもと向き合い、共に成長しようとする職員 ③ 進んで職務を果たし、常にチャレンジ精神をもって向上を目指す職員 ④ 職員とのコミュニケーションを大切にし、良好な人間関係を築ける職員 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 法令遵守を基軸にした規律ある職務の遂行 ② 自己の職務のスキルアップに心掛け、資質・能力を高めること ③ 運営の企画や実践に参画し、リーダーシップを発揮していくこと ④ 他の職員の範となるような行動力・実践力を身に付けること

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

77

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
77	0	77
27	0	27
35.1	0.0	35.1

利用者調査全体のコメント

調査対象者77名のうち、27名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」職員の接遇・態度は適切か「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「職員は話し相手や、相談相手になってくれるか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、26名が「大変満足、満足」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生と一緒に遊べて嬉しい」「学童クラブで過ごすのが楽しい」「校庭でもっとスポーツがしたい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	24	3	0	0
24名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「多くの本があって読書を楽しめる」「けん玉が楽しい」「新しい活動もしてみたい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	24	2	0	1
24名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。日常的に職員が子どもの気持ちに寄り添っている様子がうかがえる。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	26	1	0	0

26名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「おやつのおかわりができて嬉しい」とのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	16	4	0	7
16名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「話し合いの機会がまだない」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	23	1	0	3
23名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「個別に丁寧に教えてくれた」とのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	16	4	6	1
16名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、6名が「いいえ」と回答している。また、「使ったものは自分で片付けた方がいいと思う」とのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	26	0	0	1
26名が「はい」と回答している。職員の接遇や態度が適切に保たれている様子がうかがえる。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	26	0	0	1
26名が「はい」と回答している。体調不良時にも安心できる対応がなされている様子がうかがえる。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	23	3	0	1
23名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生がちゃんと指導してくれる」とのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	25	0	0	2
25名が「はい」と回答している。子ども主体の姿勢が実践されている様子がうかがえる。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	17	4	0	6
17名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「先生に秘密を話したことがない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	21	5	0	1
21名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「対応してくれることもある」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	7	6	1	13
7名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」、13名が「非該当・無回答」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	職員間で理念や目標を共有し、可視化と実践を通じて日々の活動に生かしている 理念や目標について、年度初めに事務局長、児童指導、指導員の間で確認し、12月から1月の年間反省会でも改めて振り返っている。日々のミーティングや定例のロングミーティングを通じて、職員が継続して意識できるようにしている。また、今年度からは廊下に大きな文字で掲示することで可視化を図り、職員や保護者への意識づけを行っている。さらに、年間行事計画表に目標を記載することで日常の活動とつなげやすくしている。理解や実践にばらつきが出ないよう共通認識を確認し合い、理念や目標を形だけのものにせず、日々の取り組みに生かしている。 ミーティング等により重要事項への職員の共通理解を深め、日々の成育に結びついている 日々のミーティングを通じて、理念や方針と関連づけながら支援方法や子どもの理解を職員間で確認している。特に、児童指導が中心となり、目標を意識的に位置づけて説明・共有していることは、組織としての一体感を高める要素となっている。また、事務局長や児童館長からの説明が段階的に児童指導へ伝えられ、それがさらに指導員など、他の職員全体へ共有される体制は、情報の一貫性を担保している。さらに、事故や災害時対応に関してもミーティングで周知しており、危機管理と理念の実践が結びついている。 学童クラブの目標や方針をわかりやすく伝え、保護者に安心と理解を届けている 保護者に対しては、「BOPだより」や「BOPのしおり」を通じて、学童クラブでの目標やその達成のための4つの方針を丁寧に伝えている。方針は具体的な行動に落とし込み、保護者が理解しやすい工夫がなされており、日々の活動とのつながりも示している。また、活動の経過や事故発生時の保険適用など重要な対応についても随時おたよりで説明し、透明性を高めるとともに保護者の安心につなげている。さらに、個人面談やお迎えの際のやり取りを通して保護者との信頼関係を丁寧に築き、目標や方針の理解が深まるよう努めている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>地域会議等に出席するなど、多様な情報を組織的に収集し、日常の運営に活かしている</p> <p>個人面談や日常の会話を通じて、保護者や子どもの声を丁寧に把握し、職員間で共有しながら柔軟に対応している。また、地域会議への参加や他団体の状況把握、所管課からの情報収集など、幅広く地域の情報を取り入れ、日々の運営に活かしている。今後は、こうした情報を整理・分析し、中長期的な計画や方針にさらに反映させる仕組みを充実させることで、組織的な改善につなげていくことが期待される。全体として、情報収集から共有、運営への活用までの流れは確立しており、外部環境を踏まえた運営ができています。</p> <p>計画策定から実施、振り返りまでの流れが確立し、運営に活かされている</p> <p>中・長期計画は所管課により策定されており、学童クラブでは年間計画に目標や達成のための4つの具体的方針を明確に盛り込み、職員が意識して年度計画を実施している。また、年度末には計画の実施状況や成果を振り返り、その反省を次年度計画に反映させる仕組みも確立しており、計画と実践の一連の流れが日常的に機能している。予算は所管課の範囲内で運用されており、限られた資源の中で計画を実行している。一方で、計画と実践をさらに体系的に結びつけ、組織的な運用を強化することにより、計画の実効性を一層高めることが望まれる。</p> <p>行事内容や子どもの声をミーティングで共有し、組織的に目標達成につなげている</p>		

行事の状況や子どもの声を目標や方針に反映させる工夫を行い、職員間で共有しながら柔軟に対応している。ミーティングや職員会議を通じて話し合いを深め、目標達成に向けて組織として連携して動く体制も整っている。「世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針」についても職員間で確認されており、現状の達成状況を把握することで、計画の実効性が高められている。計画の実行、共有、ミーティングでの気づきなど、一連の流れが組織的に定着しており、柔軟な運営が行われている。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリー1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリー2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリー3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリー3の講評

法や規範について研修や確認作業をする仕組みが整っており、実践につながっている

大切にすべき法や規範、倫理について学ぶ機会が計画的に設けられている。具体的には、年度初めや職員更新の際に確認が行われ、常勤職員は新人研修を通して基礎的な知識を学んでいる。また、指導員も採用時に研修を受ける仕組みがあり、児童館長から直接説明を受ける機会もある。さらに、必要な資料を紙で手元に置き、随時確認できるようになっている。職員は日常の業務の中で自然に法や倫理を意識し、実践につなげやすい環境が築かれている。職員の自己評価においても高く評価されており、職員意識への定着と実践が進んでいることがうかがえる。

日常的な観察と情報共有、他機関との連携により、虐待防止の仕組みが機能している

子どもの権利擁護や虐待防止に向けた組織的な取り組みを実践している。子どもとの信頼関係を重視し、洋服の汚れやけがの記録、感情の変化への配慮などを通じて日常的な観察が行われている。気づいたことはミーティングで共有され、その後の見守りや対応に反映されるようになっている。加えて、保護者や所管課、他機関への報告・連絡も必要に応じて行える体制が整い、職員同士が声を掛け合い助け合う文化が根付いている。虐待防止や早期発見に向けた実効性のある体制が構築されている。

子どもの意見を丁寧に受け止め、多様な方法で意向を把握し、日々の運営に反映している

子どもの意向把握や権利擁護に向けた組織的な取り組みが整備されている。所管課や児童館の連絡先を案内するとともに、事故や問題発生時の対応フローや記録用書式を整え、職員全体で迅速かつ統一に対応できる体制がある。日常的に子どもの意見や要望を否定せず受け止める姿勢を重視し、本の購入など具体的な改善につなげた事例も見られる。さらに、口頭での対応や区民の声を通じた情報収集など、多様な方法で意向を把握する工夫が行われており、子どもの権利擁護や意向反映に向けた仕組みが機能している。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>熱中症や感染症に関する予防策が職員間で共有され、組織全体で取り組んでいる</p> <p>季節ごとの感染症対策や避難訓練を通じて、必要な対策を徹底している。けがや避難時も、組織として定められたルールに沿って適切に対応している。看護師による嘔吐の処理・ケガの対応などの研修や、月1回発行される通信により職員の理解が深まっている。事故や感染症発生時には職員会議で対応策や再発防止策の確認・見直しを行っている。また、遊びの内容調整や水分補給、手洗い強化など、熱中症や日常的リスクへの対策も実施されている。組織全体として日常的かつ緊急時のリスクに対応する体制が整備され、職員間で安全意識が共有・定着している。</p> <p>職員会議などでリスク対応を確認し、訓練の実施により安全を確保している</p> <p>リスクに対する必要な対策は職員会議等で確認・共有され、組織として安全確保に努めている。学校との連携により感染症や災害時の情報共有が行われ、災害時の子ども対応も組織内で取り決められている(以前は合同避難訓練も実施されていた)。さらに、常勤職員は安全対策マニュアルに基づく配置などの体制が整備され、職員間で日常的・緊急時の対応が共有されている。避難訓練は、常勤職員不在時などさまざまな状況を想定して実施され、実際の対応を確認する取り組みも行われている。</p> <p>個人情報の管理と活用に配慮しながら、職員間で適切に情報共有が行われている</p> <p>個人情報を含む必要な情報を適切に収集・整理し、管理・保護する体制が整備されている。書庫の施錠管理や職責に応じたPC利用範囲の制限、複数職員による確認など、情報管理の基本的な運用手順が遵守されている。また、利用目的の明示や開示請求への対応、会議資料の写真加工、入会説明会での口頭説明など、情報活用に際しても配慮がなされている。特に、児童表を用いた情報交換については、保護者の同意を得て、署名・捺印をもらった上で実施している。日常業務を通じて職員間で方針が共有され、安全性と活用の両立に一貫して努めている。</p>		

5			カテゴリ-5
5			職員と組織の能力向上
			サブカテゴリ-1(5-1)
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	11/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇●)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
○あり ●なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
			サブカテゴリ-2(5-2)
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリ-5の講評

職員の意見を生かしながら、やりがいのある職場環境づくりを目指している

指導員の採用面接には児童館長や児童課が関与し、プレイングパートナーはクラブで事務局長と常勤職員が面接を行って、求める人材の採用を進めている。また、職員の意見をヒアリングで反映する仕組みも整えられている。指導員から試験を受けて常勤職員になった例もあり、キャリアアップを図っている。職位に応じた業務内容の変更にも対応しており、職員が安心して職務に取り組める体制が整っている。日常業務においても、各職員の得意分野を生かした役割分担を行い、子どもにとって楽しく、職員にとってやりがいのある職場環境づくりを目指している。

研修や指導の仕組みを生かし、職員が安心して学び、成長できる環境を整えている

年数別・職種別研修や研修報告、ミーティングを通して、職員の知識や技術の共有が行われている。常勤職員は採用時研修や年次研修を受け、指導員も担当課から定期的な研修案内を受ける仕組みがある。さらに専門研修にも年に数回参加し、職員のスキル向上を図っている。児童館長による常勤職員への指導や相談体制も整えられており、成育時間内の困りごとに対応できる環境づくりも進められている。個人別育成計画や記録はないものの、組織として研修や指導の枠組みが整い、職員の成長を支える体制が構築されている。

得意分野を活かした行事や学びの共有により、職員の意欲とチーム力向上を目指している

職員の定着や組織力向上に向け、長所を生かした行事企画や日々の挨拶・コミュニケーションなどに組織として取り組んでいる。工作や伝承遊びなど、職員の得意分野を担当させて行事化することで、やりがいとチームへの貢献意識を高めている。研修内容の報告やミーティングを通じて学びや気づきを共有し、チームワーク強化につなげる工夫も行われている。また、ミーティングだけでなく互いに声を掛け合い、職員一人ひとりの声に耳を傾けることを大切にしている。このように職員の意欲向上や能力発揮を支援する環境が整えられている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

・理念「安全で楽しい新BOP・子どもが行きたいと思える居場所」の実現に向け、言葉遣い、物の扱い、マナーの向上を重点課題として設定した。

・年間反省や日々の育成において多くの意見が挙がったことを踏まえ、課題として抽出した。

【具体的な取り組み】

・不適切な言葉遣いが見られる場面には職員を配置し、その場で声かけや個別指導を実施した。

・整理整頓については、整えた児童に「ありがとう」と伝えるなど、肯定的な関わりを重視した。

・間食時や長期休業中には複数の職員で見守り、全体指導を行いマナーの定着を図った。

【取り組みの成果】

・全体的に言葉遣いやマナーの改善が見られ、整理整頓への意識も高まった。

・一部の児童には引き続き個別対応が必要である。

【今後の方向性】

・今年度も同様の目標を継続し、掲示物の活用など視覚的な工夫を取り入れて意識づけを強化する。

・物の大切さを社会状況と関連づけて伝え、子どもが自ら大切に扱う姿勢を育む。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもたちが秩序をもって集団生活を送るために、基本的な行動やマナーを身につけることを重要な課題として位置づけている。「安全で楽しい場・子どもが行きたいと思える居場所」の実現をめざし、職員一人ひとりがその意義を理解し、どのように取り組みを進めていくかを話し合いながら、共通理解と共通実践を重ねてきた。

具体的な取り組みとしては、あいさつや言葉遣い、整理整頓、食事や間食時のマナーなど、日常生活に密着した行動の定着を中心に据えている。職員は子どもへの声かけや具体的な助言を行いながら、肯定的な関わりを心がけ、子どもの行動変化を丁寧に見守ってきた。その結果、子どもたちの言葉遣いや整理整頓の意識、食事のマナーなどに改善が見られ、落ち着いた雰囲気の中で過ごせるようになってきている。

一方で、個別に支援を必要とする子どもも見られることから、引き続き保護者と連携しながら丁寧な関わりを続けていくことが課題である。これらの取り組みは、PDCAサイクルに沿って展開されており、組織として課題を共有し、継続的な改善に取り組む体制が確立されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

- ・子どもが行きたいと思える居場所の実現に向け、遊びの充実を課題とした。
- ・遊びが限られ、子どもが「飽きた」と感じる声があったことから、多様な遊びを提供し参加意欲を高めることを目的としている。

【具体的な取り組み】

- ・女子も参加できるメンコ大会を開催し、コマ検定や校庭遊びでコマ遊びの工夫をした。・子どもアンケートを基に漫画や本を購入し、意見を反映させた。

- ・学校と調整し、子ども希望のサッカーの曜日を設定した。・工作活動として、お菓子の箱を活用して工作の幅を広げた。

【取り組みの成果】

- ・女子のメンコ大会参加人数が増加し、メンコ作りやコマ遊びへの関心も高まった。
- ・図書活動では集中して読む姿が増え、落ち着ける居場所としての機能が向上した。
- ・サッカー参加者が増え、工作活動に集中する姿も見られ、全体の参加人数が向上した。

【今後の方向性】

- ・遊びのマナー化を防ぐため、けん玉検定やミサンガ作りを年間計画に新たに導入した。
- ・日々の育成では、バレーボールや工作など新しい要素を随時取り入れていく。
- ・夏休みなど長期休みには特別なおもちゃを提供し、子どもたちの関心を引き続き喚起する。

目標の設定と 取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

子どもたちがさまざまな遊びを楽しめるよう、運動遊びや伝統的な遊びなど複数の領域を取り入れ、バラエティに富んだ年間計画を立てて実施している。遊びを固定化せず、子ども一人ひとりの興味や関心に応じて新しい遊びを導入する工夫も行われている。具体的には、女子も参加できるメンコ大会の開催や、子どもたちの意見を反映した図書購入、希望に応じたサッカーの曜日設定、工作活動の充実などが行われた。その結果、参加者や層の厚みが増し、子どもたちが集中して遊ぶ場面が多く見られ、落ち着いた居場所としての機能も高まっている。高学年も含め、多くの子どもが参加していることから、個々の興味に応じた遊びの提供が効果的であるといえる。今後は、年間計画に新しい種目を加えたり、バレーボールや職員の特技を生かした工作を導入したりすることで、遊びの多様性と充実をさらに高めることが期待される。これらの取り組みは、PDCAサイクルに沿った計画的な課題解決として展開されている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している ○非該当
	◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○非該当
	サブカテゴリ1の講評	
	<p>新BOPだよりや入会説明書、新一年生向け資料などを通じて、情報を提供している</p> <p>新BOPだよりや入会説明書、新一年生向け資料などを通じて、保護者に必要な情報を分かりやすく提供している。内容は、登所・退所時間の登録方法や緊急時対応カードの記入手順、児童票の準備など、実務的な事項が中心である。決まりごとの周知にとどまらず、保護者が気になる事項を伝え、安心して利用できるようにしている。さらに、文字にルビを振ったり絵を添えたりする工夫によって、子ども自身も資料に親しみやすくなっており、情報が子どもと保護者の双方に正確かつ丁寧に伝わるよう配慮されており、安心感の向上につながっている。</p> <p>行政や保育所、幼稚園などの関係機関に、活動内容や運営に関する情報を送っている</p> <p>学童クラブの活動内容や運営情報を行政や保育所、幼稚園などの関係機関に文書で送付し、地域における連携の基盤を整えている。ICTを活用して区への報告を行うなど、正確で効率的な情報提供が実施されている。これにより、関係機関が学童クラブの役割や活動を理解しやすくなり、子どもの生活を支える地域的な協力関係につながっている。今後は、従来の文書送付に加えてメール配信などの電子的手段を導入することで、さらに迅速で広範な情報共有が可能となり、地域全体で子どもを支える体制を充実させていくことが期待される。</p> <p>入会の申請時に、面談チェックリストを用いて家庭の状況を丁寧に確認している</p> <p>保護者や子どもからの問い合わせや見学希望には、事前連絡を受けた上で時間を調整し、常勤職員が対応している。入会の申請時には、面談チェックリストを用いて家庭状況を丁寧に確認し、必要な書類を整えることで、受け入れに備えている。このような対応では、一律的ではなく家庭の個別事情に応じた柔軟な姿勢が見られており、安心感を与えている。見学時に子どもたちの活動の様子を実際に確認できることは、クラブへの理解を深めることにつながっている。職員の丁寧な対応姿勢は、子どもや保護者との信頼関係を育むうえで大きな要因となっている。</p>	

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>保護者に対して利用費用や基本的なルールを丁寧に説明し、理解を得ている 入会説明会を3月に実施している。保護者に対して利用費用や基本的なルールを丁寧に説明し、理解を得ている。新BOPだよりや新一年生向け資料を配布することで、子どもや保護者が利用開始時に必要な情報を的確に把握できるようにしている。また、参加が難しい家庭には個別相談や電話対応を行い、不安を和らげている。家庭の状況に寄り添った柔軟な対応により、保護者の安心感を高めている。今後は、より早い段階から情報提供や相談の機会を設けることで、利用開始時の不安を一層和らげることができると考えられる。今後の検討に期待したい。</p> <p>サービス開始時に児童票やアレルギー調査票を作成し、子どもの個別状況を把握している サービス開始に際して、児童票やアレルギー調査票を作成し、子どもの個別状況を的確に把握している。事前にオリエンテーションを実施することで、新しい環境に戸惑わないよう配慮されており、日常的にも保護者との面談やお迎え時の声かけを通じて不安の軽減に努めている。アレルギー対応については、厳格なチェック体制のもとで保護者との情報共有が徹底されている。発達面で配慮を要する子どもに対しては、事前の聴き取りや個別対応を行い、学校とも連携しながら支援体制を整えている。子どもが安心して生活できるよう環境が確保されている。</p> <p>退所を迎える三年生に対して、生活の連続性へのアプローチを強化することが望まれる 学童クラブは原則として三年生までの受け入れであるため、終了を見据えた支援が求められている。現状では段階的に自立に向けた取り組みが行われ、保護者や子どもに対して個別に説明や相談を実施している。お迎え時や面談を通じて、子どもの生活状況や不安を丁寧に聞き取り、家庭との連携を図りながら移行期を支援している。なお、退所を迎える三年生に対しては、二学期頃からより具体的な進路や今後の生活に関するアプローチを強化することが望まれる。終了期の取り組みを早期に体系化し、生活の連続性を意識した支援を充実させることが期待される。</p>		

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
個別指導計画表を活用し、子どもの実態や発達状況に応じた目標設定を行っている 区の様式に沿って年間計画を作成し、個別指導計画表を活用して子どもの実態や発達状況に応じた目標設定を行っている。必要に応じて随時見直しを加え、支援の方向性を柔軟に修正している。保護者に対しては個人面談を通じて子どもの状況や課題を共有し、支援計画の内容について理解を得る機会を設けている。保護者会の開催が難しい状況にあるものの、日常的なコミュニケーションを通じて連携を図るよう努めている。今後は専門的助言を取り入れ、保護者参加の機会を拡充することで、計画の実効性と保護者の納得感を高める取り組みに期待したい。 職員は子どもの出欠や活動内容、安全確認、職員配置状況などを日々記録している 職員は、新BOP日誌や個人記録を活用して、子どもの出欠や活動内容、安全確認、職員配置状況などを日々記録している。記録はメモ程度の簡便な形式も多いが、子どもの変化や職員の対応を振り返る基盤として機能している。また、毎日の短時間ミーティングや月1回のロングミーティングにおいて記録内容を共有し、職員間で意見交換や課題整理を行う仕組みが整えられている。情報の伝達漏れが少なく、一貫した支援が維持されている。一方で、議事録は簡略にとどまる傾向があるため、今後は内容を体系的に残し、情報を改善に活かすことが望まれる。 記録は自由記載のメモに依存する部分もあり、体系的整理が課題となっている 障害や発達面で配慮を要する子どもについては、個別指導計画に基づいた支援を実施し、日々の観察や保護者からの聴き取りを通じて必要な対応を図っている。職員は情報を共有しながら臨機応変に対応しているが、記録は自由記載のメモに依存する部分もあり、体系的整理が課題となっている。現状では職員同士の協議に限られた時間で行われているため、深い検討や専門的助言を得る機会が不足している。こうした点を補うために、今後は、外部専門家による助言やスーパービジョンを導入し、記録と計画策定の質を高めていくことが期待される。			

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている 〇非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している 〇非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している 〇非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している 〇非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している 〇非該当
サブカテゴリー5の講評	
<p>区の個人情報保護規定に準拠し、職員は日常的に私的情報を扱わない姿勢を徹底している</p> <p>子どもに関する情報を外部とやり取りする際には必ず保護者の同意を得ることを徹底している。また、区の個人情報保護規定に準拠し、職員は日常的に私的情報を扱わない姿勢を徹底している。こうした取り組みは、個人情報の流出を防ぎ、保護者からの信頼を高める基盤となっている。規定に基づく行動は属人的な対応に陥らず、組織全体で一貫した実践を可能にしている。今後は、情報管理の重要性についても職員間で共有し、意識を高め続けることで、子どもと保護者双方にとって安心できる環境と、信頼性の高い運営体制を強化していくことが期待される。</p> <p>遊びの場面でも子どもの発案を取り入れるなど、意思を尊重する工夫がなされている</p> <p>子ども一人ひとりの意見や考えを受け止め、できる限り活動に反映する姿勢が見られる。遊びの場面でも子どもの発案を取り入れるなど、意思を尊重する工夫がなされている。問題行動が生じた際には、子どもの立場に立ち、背景や考えを丁寧に聞き取る対応を行っている。こうした実践は、子どもの主体性を守ると同時に、尊厳の保持にもつながっている。さらに、保護者の価値観や生活習慣を尊重しつつ、調整を重ねながら援助を行う姿勢も見られている。今後は、こうした実践を職員間で共有することで、より一層子どもの権利保障が根付くと期待される。</p> <p>日常的に子どもの行動傾向を把握し、予兆を感知した際には即時に声かけを行っている</p> <p>子ども間の暴力やいじめを未然に防ぐため、日常的に子どもの行動傾向を丁寧に観察している。予兆を感知した際には即時に声をかけている。こうしたことにより、問題行動を未然に防止する効果が高まっている。また、職員に対しては年間3回程度の研修を行い、プライバシーや尊厳に関する知識や対応力の向上を図る機会を設けている。研修は、個々の感覚に依存しない共通理解を形成するうえで有効に機能している。今後は、研修内容をさらに具体化し、事例検討を通じて実践に結びつけるなど、さらなる工夫を検討していくことが期待される。</p>	

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
毎年手引書を更新し、職員が日常業務をする上で確認している 毎年手引書を更新している。職員は日常業務の中で手引書を確認し、会議や打ち合わせの際にも必要に応じて参照することで、支援手順の統一を進めている。また、安全対策やアレルギー対応、感染症やてんかんへの対応に関する各種マニュアルも整備されており、緊急時に迅速な対応が可能な体制が構築されている。一定水準のサービスを安定的に提供する基盤となっている。今後は、日常的な活用状況を継続的に点検し、内容の改善や職員間の共有を重ねることで、一層の標準化を図っていくことが望まれる。	
サービス内容は年度途中や年度末に定期的に点検され、必要に応じて改善されている 提供されるサービスは年度途中や年度末に定期的に点検され、必要に応じて改善が行われている。職員や保護者の意見を集約し、協議を経て業務の見直しに反映している。特に年度末の反省会では、保護者や子どもの声を踏まえた改善が検討され、現場の課題に即した修正が行われている。踏襲すべき内容と改善すべき内容の区分を明確にしながら、より良い運営ができるように努めている。今後は、変化する子どもや保護者の実態を的確に把握しながら、一層の標準化と個別対応の調和を進めていくことに期待したい。	
反省や評価の場を設け、職員だけでなく子どもや保護者の意見も幅広く集約している 年度末の反省や評価の場を設け、職員だけでなく子どもや保護者の意見も幅広く集約し、業務の標準的な水準を見直している。例えば、子どもの生活習慣や遊び方に関する提案が協議に取り入れられ、次年度の活動や手引書の改訂に反映されている。これにより、標準化が画一的な運営に陥ることなく、現場の実態や多様な価値観に対応する柔軟性を備えている。今後は、外部評価や地域の意見も積極的に取り入れながら標準業務を進化させ、利用者の声を基盤とする信頼性と実効性の高い運営体制をさらに発展させることが望まれる。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>個々の子どもの違いを認め、良い行動を称賛しながら協力関係を築く援助を行っている</p> <p>クラブでは、子ども同士が年齢や文化、生活背景の違いを認め合い、互いを尊重できるよう援助している。日々のおやつや遊びの場面で生じる物の取り合いや小さなトラブルに際しては、職員がその子の特性や状況を踏まえた声かけを行い、良い行動を見逃さず称賛し、集団で共有できるよう働きかけている。個別的な配慮が必要な場合には職員間で事前に傾向や留意点を共有し、統一的にアプローチしている。こうした積み重ねにより、子どもたちは協力し合う力や他者を尊重する姿勢を身につけ、関係性を豊かに築けるように援助している。</p> <p>トラブルを冷静に振り返り、子ども同士が相互に理解し合えるように援助している</p> <p>クラブでは、子ども同士のけんかや衝突が起きた際、まず感情の高ぶりを落ち着かせ、話ができる状態を整えることを重視している。その上で、なぜトラブルが起きたのかを一緒に振り返り、どうすればよかったかを考えさせることで、相互理解と納得を促している。こうした対応は単発で終わらず、子どもの様子や変化に応じて職員間でミーティングを行い、ケースに応じた適切なアプローチを検討し、共有している。こうした日々の積み重ねにより、子どもたちが感情を調整し、他者との関係をより良く築く力を身につけられるよう援助している。</p> <p>段階的な援助を継続的に行うことで、子どもの成長と集団生活への適応を支援している</p> <p>クラブでは、発達面で特に配慮が必要な子どもが集団生活に徐々に馴染み、他の子どもと共に成長できるよう段階的な援助を行っている。例えば、その子なりの適応行動や試し行動などが見られた際には、過去の出来事を振り返らせながら気づきを促し、次のステップとして望ましい行動を考えさせるなど、行動の変容につなげている。職員は一度の対応で完結させず、繰り返しの働きかけを重視している。こうした積み重ねにより、子どもが見通しを持ち、自ら工夫しながら前に進む力を身につけ、集団の中で安心して成長していけるように援助している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>ルールの可視化を通じ子どもの理解を深め、自主性を育み豊かな生活体験を支援している</p> <p>クラブでは、子どもの自主性や自発性を尊重した環境づくりに努めている。自由な遊びを重視しつつ、約束を可視化して示すことで、生活や遊びの流れを子どもが理解できるよう工夫している。例えば、時計下の時間割表示や読書コーナーでのルール掲示を行い、場面ごとに意識を持てるよう準備を進めている。さらに、遊びに関しては、子どもの要望を可能な限り取り入れ、実現可能な形で環境を整備している。こうした取り組みにより、子どもが自分のアイデアを生かしながら主体的に活動し、仲間と関わる中で生活をより豊かに広げていけるようにしている。</p> <p>褒める声かけと職員間の共有により、子どもの主体的な行動が育つように援助している</p> <p>クラブでは、子どもが集団活動を楽しみながら自信を持って関われるよう、職員が意識的に声をかけている。例えば、ボール遊びなどのチーム活動では、良い動きや友達への思いやりを見逃さず褒めることで、挑戦する意欲や協力する姿勢を引き出すように進めている。また、こうした働きかけを継続し実践に定着させるため、職員全体で子どもの様子を共有している。こうした関わりにより、子どもは自分の得意なことを発揮し、仲間と助け合いながら楽しんで参加し、集団の中で主体的に行動する力を伸ばせるように援助している。</p> <p>成果を可視化し、褒めて育てることにより、生活習慣を育む取り組みの充実が期待される</p>			

クラブでは、生活や遊びを通して子どもが基本的な生活習慣を身につけられるよう援助している。職員は注意や禁止に偏らずに、良い行動を見逃さず褒めて認める関わりをすることで、子どもが習慣を定着できるように支援している。例えば、達成したことをメダルやマークで可視化する仕組みを取り入れることで、子どもが成果を実感でき、他の子どもにも刺激となる。こうした視点を、今後の援助にさらに活かしていくことを目指している。家庭や学校の「褒めて育てる」実践を参考にしながら、生活習慣を育む取り組みをさらに充実させていくことが期待される。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>遊びや行事の工夫と振り返りを大切にし、子どもが主体的に関わる環境を作っている</p> <p>年間計画に基づき、クラブで分野別イベントを開催している。工作やスポーツ、伝承遊びなど多様な行事を計画的に実施し、子どもが興味を持って意欲的に参加できるよう工夫している。例えば、けん玉検定に向けた練習ポイントを絵や言葉で示した掲示物を事前に準備し、分かりやすく提示することで、子どもが自ら挑戦しようとする気持ちを高めている。さらに、行事後には職員間で振り返りを行い、子どもの反応や楽しみ方を共有し、次回の改善につなげている。こうした取り組みを通して、子どもが主体的に活動へ関わる環境を作っている。</p> <p>子どもの意見反映と年齢に応じた援助の工夫により、遊びへの主体的な参加を促している</p> <p>クラブでは、活動の途中で子どもの反応を丁寧に観察し、その意見を取り入れながら企画や活動を工夫している。特に、一年生の意見が埋もれがちな場面では、職員が声かけや場の設定を工夫し、一人ひとりが活躍できる機会をつくっている。けん玉遊びでは交代制の時間や場所を決めることで、年上の子もただでなく一年生も主体的に参加でき、挑戦できる環境を整えている。さらに、職員間で子どもたちの姿を振り返り、改善点を次に生かすことで、子ども同士で意見を出し合い遊びをつくり上げられるよう援助している。</p> <p>お便りや掲示物による情報発信を通じて、家庭での理解と子どもの参加意欲を高めている</p> <p>クラブでは、毎月のお便りやポスターを通じて行事の内容や日程を事前に知らせ、保護者に活動の趣旨を理解してもらい、子どもの参加意欲を高めている。例えば、けん玉検定に向けた準備について知らせることで、家庭での声かけや練習につながり、子どもの挑戦意欲を後押ししている。保護者からは「家庭でも楽しみにしている」「集中力が高まった」などの声が寄せられており、家庭での関わりが子どもの活動意欲を広げる効果につながっている。こうした情報発信を通じて、保護者の協力を得ることができるように取り組んでいる。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>学校生活との違いを踏まえ、安心と主体性を大切にして、自ら通える環境を目指している</p> <p>クラブでは、子どもが自ら通い続けられるよう、学校生活とは異なる安心感と自由さを大切にした環境づくりを行っている。学校では学習や規律が重視されるが、クラブは評価や成績に縛られず、仲間と遊びや活動を通じて自分らしさを発揮できる「ホッとする場」になるように進めている。特に新一年生は不安や戸惑いを抱きやすいため、職員が励ましの声かけや肯定的な関わりを重ね、ルールや生活の流れを丁寧に伝えている。さらに保護者と情報を共有し、一人ひとりに応じた支援を行うことで、子どもの安心と主体性を両立できる環境を目指している。</p> <p>掲示や声かけを通じて生活の見通しを育て、主体性を育む援助の充実が期待される</p> <p>クラブ内の掲示板や掲示物を活用して日課や活動の流れをわかりやすく示し、子どもが生活の見通しを持って過ごせるよう取り組み始めている。特に低学年にとっては、基本的なルールや約束を理解することが生活の基盤となるため、職員が日々の声かけや確認を通じて丁寧に伝えている。さらに、先を見通して自らの行動を選び取れるよう促すことで、子どもが安心感を持ちながら主体的に活動へ参加できる環境の整備を重視している。今後は遊びや日常の場面で子どもの意見を反映し、見通しを持って生活できる力を育む援助のさらなる充実を期待したい。</p> <p>活動場所の分散や装飾・図書の充実により、安心して過ごせる室内環境を作っている</p> <p>クラブでは、子どもが安心して活動できるよう、室内環境の工夫を重視している。校舎内の教室は採光に優れ明るい雰囲気がある一方で、人数に対して手狭なため、家庭科室や学習室などを借用し、活動を分散させることでのびのび過ごせる場の確保を試みている。この工夫により少人数での活動が可能となり、トラブルの減少や子ども同士の落ち着いた関わりにつながっている。また、掲示物や装飾を取り入れて雰囲気を和らげ、蔵書の充実やプラバンなどのものづくり活動を取り入れることで、子どもが安心して集中できる環境づくりを行っている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との双方向連携と家庭との情報共有により、子どもの安全と成長を支えている</p> <p>クラブでは、子どもが安心して日常生活を送れるよう、学校との緊密な連携を図っている。児童指導が窓口となり、担任や管理職と双方向の情報交換を重ねることで、子どもの理解を深め、子どもの配慮内容を確認している。体調不良など急を要する場面にも、迅速に対応できる体制を整えている。学校からの情報提供も多く、日常的なやり取りが、学校と学童クラブの協力関係を高めている。さらに、家庭との連絡体制も合わせることで、学校・家庭・学童クラブが一体となって子どもの安全と成長を支えている。</p> <p>学校との情報共有と助言を活かし、配慮を必要とする子どもへの援助を行っている</p> <p>クラブでは、配慮を必要とする子どもについて、学校と丁寧に情報を共有し合いながら援助を行っている。担任や管理職と日常的に子どもの様子を確認し、学童でできることと学校で対応できることを分担することで、無理のない支援につなげている。また、区の教育分野で実施されている特別支援教室や教育相談室などの専門機関から、教育についての心配ごとに対する助言や関係機関との調整を、必要に応じて受けることも可能である。こうした取り組みと仕組みにより、子どもが安心して成長できるように努めている。</p> <p>学校や家庭と連携し、子どもの変化に気付き、適切な機関につなげる体制を整えている</p> <p>クラブでは、配慮が必要な子どもや養育環境に課題を抱える子どもについて、学校や保護者と定期的に情報をやり取りすることで、子どもの小さな変化にも早く気付き、適切な対応につなげることを心掛けている。また、児童相談所や特別支援教室の専門スタッフとも連携し、支援を進められる体制を整えている。さらに、区の心理巡回指導を通じて観察や助言を受けられる仕組みもあり、必要な時に専門的な視点を取り入れることができている。こうした取り組みにより、子どもの気持ちに寄り添い、適切な支援ができるようにしている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>少人数制や視覚的支援などを組み合わせ、落ち着いておやつを楽しむ時間を作っている</p> <p>クラブでは、子どもが安心しておやつを楽しめるよう、様々な工夫をしている。少人数に分けて提供できるように、従来の読書室に加え、家庭科室を活用し、より広い環境で落ち着いた時間が保てるように取り組んでいる。また、食のマナーやルールの定着に向け、カードやフリップを用いた視覚的支援を取り入れ、子どもが主体的に理解できるように試みている。さらに、座席の流れや配置を職員が事前にシミュレーションし、全体の動きが円滑になるよう工夫している。こうした取り組みにより、落ち着いた雰囲気でおやつを味わえるように取り組んでいる。</p> <p>安全性を確保しつつ季節感を取り入れた工夫により、楽しいおやつ時間を提供している</p> <p>区が契約している業者から届くおやつの品を基に種類や量をクラブで調整し、午後3時ごろに提供している。おやつを楽しみにしている子どもの希望にも配慮し、夏季にはアイスなど季節感を取り入れるなどの工夫をしている。おやつに関する意見は児童指導員を通じて、必要に応じて区の担当課に伝える機会がある。食べ残しやフードロスについての課題意識を持ちながらも、安全衛生上の観点から残ったものは廃棄している。こうした仕組みにより、安全性を確保しつつ、子どもが楽しめるおやつの提供を行っている。</p> <p>個別に応じた食物アレルギーに配慮し、安全体制を徹底しておやつを提供している</p> <p>クラブでは、食物アレルギーのある子どもに対して安全を最優先にしたおやつの提供を徹底している。利用申請時の調査票と個別面談を基に、個別に応じた特別メニューを準備し、事故のない体制を維持している。アレルギー対応は生命に直結するため、マニュアルを職員間が共通理解し、年1回以上の研修でエビペンの使用や緊急対応を実習している。さらに、保護者からの聞き取りを丁寧に言い、最新の健康状態を確認して支援に反映している。こうした取り組みにより、全ての子どもが安心しておやつを味わうことができるようにしている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>手洗いうがいの習慣化や熱中症対策を通じて、自分の命は自分で守る力を育てている クラブでは、子どもが自ら健康や安全を意識できるように援助している。例えば、登室後の手洗いうがいや季節ごとの感染症予防を繰り返し伝えることで、子どもが自ら実行できる力を育てている。特に夏季には活動後の水分補給を必須とし、休憩を設けることで体調不良を未然に防いでいる。また、遊びに熱中して興奮したときには活動を一時中断し、気持ちを落ち着けてから再開する工夫もしている。こうした積み重ねを通じて、「自分の命は自分で守る」という意識を伝え、危機管理や自己管理の力が育つよう援助している。</p> <p>活動場所の分散や休憩環境の工夫により、健康と安全の意識が育つように取り組んでいる クラブでは、子どもの健康や安全を守るために、生活習慣の指導と環境の整備の両面から工夫を重ねている。活動後には水分補給を義務づけ、確認を徹底するなど予防的な支援が行われている。加えて、活動場所を複数に分散させて環境を工夫している点も特徴である。学童クラブ室や読書室、校庭、さらにはロッカー室を休憩場所として活用し、必要に応じて家庭科室を借用することで、子どもが安心して過ごせるよう柔軟な取り組みをしている。こうした工夫を通じて、子どもが自分の健康や安全を守る姿勢が身に付くように支援している。</p> <p>保護者や学校などとの密な連携により、子どもの変化に対応できる体制を整えている クラブでは、子どもの健康や安全を守るために、保護者との日常的な連絡を大切にしている。児童指導員により、電話や来所時の面談を通じて体調や行動の変化を丁寧に共有している。配慮が必要な子どもについては、家庭とクラブで意見をすり合わせながら、適切な援助に結びつけている。学校や教育の専門機関とも連携し、必要に応じて児童相談所とも連携できるようにしている。また、怪我や急な体調不良に備え、病院との連携を迅速に行える体制を整えている。こうした連携の積み重ねにより、子どもが安心して安全に過ごせるよう支えている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>子どもの帰宅時刻を柔軟に設定し、電子登録によって登退所の時間を確実に把握している 保護者の就労状況に応じて子どもの帰宅時刻を柔軟に設定し、事前の電子登録によって登退所の時間を確実に把握している。延長利用にも配慮し、保護者の生活実態に合わせた支援を行うことで、安心して就労や子育てを継続できる環境を整えている。このような仕組みは、子どもの安全確保と家庭の安定の両立を支える基盤として機能している。一方で、出欠確認において保護者からの連絡漏れが発生し、その都度職員が確認を要する状況は課題である。今後は、ICTの活用や保護者への一層の周知などにより、双方の負担軽減を図っていくことが求められる。</p> <p>連絡協議会を開催し、保護者と地域関係者を含む十数名が参加して意見交換を行っている 年2回の連絡協議会を開催し、保護者や地域関係者を含む十数名程度が参加して意見交換を行っている。連絡を取り合う仕組みが整えられることで、家庭同士のつながりが強化されている。交流の場が保護者に安心感を与え、子育てを家庭単独で担いきれない部分を補う役割を果たしている。地域資源を取り込みながら、保護者が孤立しない環境を提供している。また、協議会を通じたネットワーク形成は、保護者の心的負担の軽減にもつながっている。ただ、交流機会が限られており、幅広い層の保護者が参加できる仕組みづくりは今後の課題といえる。</p> <p>新BOPだよりや連絡帳を活用し、子どもの発達状況や日々の様子を共有している 引き取り時の声かけや電話連絡を重ねることで、職員は保護者との信頼関係を築いている。また、新BOPだよりや連絡帳を活用し、子どもの発達状況や日々の様子を共有する仕組みを設けている。必要に応じて個人面談を実施し、子どもの課題や成長を共有する姿勢は、保護者の安心感につながっている。保護者と職員が共通理解をもって子どもを支える基盤となり、安全の確保にも直結している。一方で、要望が個別に寄せられることは少なく、潜在的な声を拾い上げる仕組みが十分でない。今後はアンケートの導入など、多様な意見を反映させる工夫が望まれる。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもたちが模擬店を担当するなど、地域住民と共に活動する機会を設けている</p> <p>クラブでは地域の盆踊りに参加し、子どもたちが模擬店を担当するなど、地域住民と共に活動する機会を設けている。また、読書会サークルによる「お話し会」を定期的に行われ、地域の大人と触れ合いながら豊かな体験を積んでいる。子どもが地域社会の一員として自覚を持ち、多様な人々と関わることで生活の幅を広げる効果がある。地域資源を活用した実践は、子どもの社会性や協調性を育む上で大きな意義があり、今後の発展的な展開が期待される。なお、地域行事への参加が減少傾向にあり、今後は継続的な交流を促す仕組みを工夫していく必要がある。</p> <p>学校との連携を重視し、安全管理や児童指導、災害時対応まで協働体制を整えている</p> <p>クラブは学校との連携を重視し、年間から週単位にわたって情報を共有しながら、安全管理や児童指導、災害時対応に至るまで協働体制を整えている。また、新BOP運営委員会や連絡協議会を通じ、学校長、PTA、地域の青少年委員、主任児童委員、町会や商店街など多様な関係者が加わり、地域全体で子どもを見守る仕組みが機能している。家庭や施設だけでなく、地域社会と連動した育成環境を築いている。全体として、協働的な連携の実践は子どもの安心と成長の基盤を強化している。今後は、日常的に地域と関わる活動を増やすことが期待される。</p> <p>読み聞かせなど、子どもが地域の大人から継続的に学ぶ機会が保障されている</p> <p>地域の読書会による読み聞かせが定期的に行われており、子どもたちが地域の大人から継続的に学ぶ機会が確保されている。また、学校やPTAと協力し、地域の安全見守り活動にも参加するなど、生活の中に地域との接点が組み込まれている。子どもにとって地域が安心できる生活圏であることを実感させ、社会性や主体性を育む契機となっている。一方で、行事や交流の形態が限定的になりつつあるため、多様な活動分野を広げる工夫が求められる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	職員間で理念と目標を共有し、達成目標を意識した声掛けなど日々支援に取り組んでいる	
内容①	職員は日々のミーティングや年度当初の確認を通じて、理念を共有している。日常的に理念を具体化した達成方針を意識し、支援を行っている。廊下には大きな字で書かれた目標を掲示し、誰もが目にすることで可視化と意識化を図っている。また、保護者に対しては説明会やお便りで目標と達成方針を具体的に示し、個人面談やお迎え時の対応を通じて信頼関係を築き、内容への理解を深めている。職員間でも「世田谷区放課後児童健全育成の運営方針」に記載されている7つの目標について、現状とのすり合わせを行い、目標の達成状況を確認する場を設けている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-1-1	子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル②	子どもが大切なことを理解しやすいよう、ルールや約束事を目に見える形で示している	
内容②	子どもが生活の中で大切なことを理解しやすいように、日常のルールや約束事を目に見える形で示している。遊び方やルールを廊下に掲示し、子ども自身の言葉で示すことで理解を促している。子どもの気持ちが高ぶる場面においても、掲示と職員の対応が連動し、自ら感情を整理する助けとなっている。トラブルの予防や解決に有効で、日常生活の安定にもつながっている。また、一日の終わりに「よいこと」を話し合い、発表する活動を継続し、子ども同士が互いを肯定的に受け止める姿勢を育んでいる。職員も積極的に参加し、組織として実践を深めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	職員が協力し合い、子どもの意見や行動を尊重し称賛して、子どもの自主性を育んでいる	
内容③	クラブでは、子どもの自主性を大切に支援に力を入れている。遊びや生活の場面では、ルールや約束を可視化し、子どもが自分で流れを理解して見通しを持てるよう工夫している。また、良い行動はその場で称賛し、職員間で共有することで、挑戦する意欲や自信につながっている。さらに、行事や日常の活動では子どもの意見を取り入れ、低学年も含めて一人ひとりが活躍できる機会を整えている。こうした積み重ねにより、子どもが自分の思いや考えを表現し、仲間と関わる中で主体的に行動し、生活を豊かにしていく力を育んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域との連携や情報発信を通じ、地域ネットワークや協力関係の広がりを目指した学童クラブ運営の取り組みがなされている
	内容	年二回の協議会開催やお便りの配布を通じて、保護者や地域に学童クラブの活動内容を伝え、誰もが理解できる開かれたクラブ運営に努めている。また、他団体の活動状況や課題を収集し、地域の課題共有や解決に向けた会議に年間5回程度職員が参加するなど、積極的に地域と連携している。さらに、地域のお祭りに子どもたちと共に出店することで、地域住民との協力関係を深め、相互理解と信頼を築く取り組みも行われている。これらの活動により、地域とのネットワークが着実に広がり、クラブ運営の透明性や地域貢献の姿勢がより明確に示されている。
2	タイトル	学校との密接な連携が構築されており、学校側から施設の柔軟な貸し出しを受けることで、行事や日常活動の幅を広げている
	内容	学校との連携関係が密接であり、学校側から施設の柔軟な貸し出しを受けることで、行事や日常活動の幅を広げている。相談事への対応も迅速であり、職員と教員が互いにフレンドリーで理解ある関係を築いている。さらに、子ども同士のトラブル発生時には双方が連携して対応する仕組みが機能している。こうした日常的なやりとりを通じ、学校側が「自校の子どもがお世話になっている」という認識を持ち、相互に支え合う姿勢が育まれている。クラブと学校が一体となって子どもを支える土台となり、子どもにとって安心して生活できる環境が生まれている。
3	タイトル	職員が協働し情報を共有しながら統一的な援助を進め、職員のチームによる支援により、子どもの安心と成長を支える体制を作っている
	内容	クラブでは、職員が一体となって子どもの生活や発達を支える体制づくりに努めている。日々の観察で得た情報は定例のミーティングで共有され、子どもの状況や課題を全員で把握している。衝突やトラブルが起きた際には、様子を職員間で振り返り、共通理解をもとに対応を検討し、統一的な援助につなげている。また、配慮が必要な子どもについても職員が継続的に働きかけを行い、段階的な支援を共有することで、職員のチームによる支援を重視している。こうした協働的な取り組みが、子どもの安心や信頼を高め、集団の中で共に成長する力を育てている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもへのより良い支援を継続・充実させるため、児童指導職の適正な配置と役割分担、連携体制等の仕組みについて検討が望まれる
	内容	児童指導職は入会申請や行事計画、ミーティング運営、保護者対応、児童指導など幅広い業務を担い、協力しながら育成や職員間の意思疎通に努めている。その結果、組織は安定し、保護者からも評価されている。一方で業務量は多く、個人の努力に依存する体制には課題がある。「放課後児童健全育成事業の運営方針検討委員の報告書」では子ども集団は40人以下が望ましく、支援単位ごとに専門職の配置が推奨されている。これに準じた適切な常勤配置が整備されることで、一層充実し、安定した運営が期待される。今後の検討が望まれる。
2	タイトル	活動が十分に記録されていないため、ICTの活用も視野に入れつつ、日常的に実践を蓄積・共有できる記録システムの構築が期待される
	内容	日々の活動において、職員は定期的なミーティングを通じて意思疎通や情報共有を丁寧に行っており、日常運営の基盤が確立されている。日誌は作成されているが、活動内容や子どもの様子、職員の対応の工夫などが十分に記録されていない現状がある。そのため、取り組みを振り返る機会や、次世代の職員への経験の継承といった場面で十分に活用しきれない。記録の不十分さは、成果や実践内容の可視化を妨げる要因にもなっている。今後は、ICTの活用も視野に入れつつ、日常的に実践を蓄積・共有できる記録システムの構築が期待される。
3	タイトル	家庭や学校・専門機関との連携を深め、観察や評価を体系的に行い、子どもの変化に応じた支援の専門的手法を充実させることが期待される
	内容	クラブでは、掲示物・お便り・個別面談を通じて活動内容とその様子、活動の予定を家庭に伝え、子どもの参加意欲や生活の見通しを高める工夫をしている。また、配慮を必要とする子どもについては、学校や保護者と丁寧に情報を共有し、専門機関の助言や心理巡回指導を活かす体制も整えている。しかし、子どもの変化に継続的かつ体系的に評価する仕組みは十分といえず、外部の専門職との連携をさらに深め、観察や評価を体系的に行う仕組みづくりが望まれる。こうした取組により、支援の専門的アプローチを充実させることが期待される。